

腎臓リハ NEWS LETTER

<https://jsrr.smoozy.atlas.jp/ja/>

発行：一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会 筑波大事務局
〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1 筑波大学附属病院内
Fax: 029-896-7746 E-mail: kanri@jsrrtsukuba.com

令和4年度診療報酬改定 「透析時運動指導等加算」の新設

一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会

診療報酬対策委員会委員長

武居 光雄

I. 今までの経過と診療報酬獲得へのアプローチ

2012年から上月前理事長と理事の私が診療報酬獲得のための活動を開始しました。2014年の診療報酬改定時に要望していた『腎臓リハビリテーション料』が認められなかったため、正式に内科系学会社会保険連合(内保連リハビリテーション関連委員会)に加入し、同年3月診療報酬対策委員会(委員長 武居光雄)を設立しました。本学会で収集した客観的なデータを示しながら、厚生労働省に直接陳情を繰り返し、下記のような変遷を辿りながら保険診療収載を果たす事ができました。

2016年改定：糖尿病性腎症患者が重症化し透析導入防止を目的として、進行した糖尿病性腎症患者に対する質の高い運動療法指導を評価するため、糖尿病透析予防指導管理料に『腎不全患者指導加算(eGFR30ml/min/1.73m²未満、月1回100点を算定可)』を認めていただきました。これは、当該患者が腎機能を維持する観点から必要と考えられる運動について、専任の医師が、その種類、頻度、強度、時間、留意すべき点などについて指導し、また既に運動を開始している患者についてはその状況を確認し、必要に応じて更なる指導を行います。同時に内保連の腎・血液浄化療法関連委員会にも加盟し、日本透析医学会、日本腎臓学会や日本透析医会ともコラボレーションを開始しました。

2018年改定：『高度腎機能障害患者指導加算』として、糖尿病性腎症患者に対して eGFR45ml/min/1.73m²未満まで対象を拡大していただきました。

2020年改定：本学会からの要望事項の本丸である『腎臓リハビリテーション(慢性腎臓病運動療法料)』につ

いては、残念ながら認めていただけなかった。

2022年改定：『透析時運動指導等加算』を認めていただいた。今までの指導加算で対象外であった透析患者へのリハビリテーション実施(今まで認められている疾患別リハビリテーションを除く)に伴う保険診療を初めて認めていただき、10年来の願いが叶った瞬間でした。これはひとえに腎リハ学会会員施設からのデータ収集と解析及び厚労省へのロビー活動による成果であると考えています。なお、『透析時運動指導等加算』の『等』とは、運動指導、食事指導、疾患指導等総合的・包括的に想定されています。即ち運動療法のみを指しているものではありません。これは本学会が声を大にしてアピールしてきたチーム医療を前提とした「包括的腎臓リハビリテーション」を反映しています。

II. 今後の予定と展望

本学会からの要望事項の本丸は『加算』ではなく、「疾患別リハビリテーション」のカテゴリーに『腎臓リハビリテーション(透析リハビリテーション)』を加えていただく事です。相当高いハードルを越えないと実現できませんが、可能性はゼロではないので、今後も関係各位の御協力をいただけるように願っています。

厚生労働省から公表される疑義解釈集等の情報を今後も収集するので、不明な点に関しては学会事務局(診療報酬対策委員会)へお問い合わせください。全国津々浦々の透析関連施設で今回の保険収載に沿った運動指導等を積極的に実施して普及させ、元気なCKD患者が増える事を祈念しています。また、今後の展望のためにデータ収集に御協力いただけますと幸いです。

一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会
編集・ガイドライン委員会委員長
松永 篤彦

この度、2022年2月末に「日本腎臓リハビリテーション学会誌(和文誌)」が創刊されました。本学会誌は、前理事長の上月正博先生によるご発案のもと、現理事長の山縣邦弘先生によって具現化された、当学会のオフィシャルジャーナルです。すでに、当学会には日本透析医学会等との共同による公式の Renal Replacement Therapy (欧文誌)がありますが、腎臓リハビリテーションが多職種による包括的なチーム医療を展開することを求められているだけに、この度の和文誌の誕生は関連する多くの職種による知的交流の場として大きな役割を担うものと思われま

す。本学会誌は、腎臓リハビリテーションの科学的根拠となる基礎医学や腎臓リハビリテーションを実践するための知識と技術に関する研究成果を相互に共有し、会員の知的交流の場を定期的に提供することで、わが国における腎臓リハビリテーションの発展に資することを目的としています。また、本学会誌が取り扱う領域は、日本腎臓リハビリテーション学会が示す腎臓リハビリテーションの定義に基づいて、腎疾患を有する患者に対する運動療法、食事療法、薬物療法、精神・心理サポート、生活指導・教育および支援を含めた包括的なリハビリテーションであり、慢性腎臓病の重症化予防だけでなく、一次予防を目的とした健康増進を目的としたリハビリテーションを含みます。そして、これらの目的と取り扱う領域から、本学会誌に掲載する論文は独創性と新奇性を有し、腎臓リハビリテーションの発展に貢献する水準を有するものとし

ます。本学会誌は年2回(1号は1月末、2号は9月末)の発刊を計画しております。腎臓リハビリテーションに関わる皆様、また関心を持つ多くの職種の方々に、価値あるそして最新の情報を提供したいと考えております。多くの皆様、そして多職種の方々からの投稿を期待しております。

投稿規定抜粋

- 投稿資格:** 投稿者は、筆頭著者が本学会員(施設会員可)であることが必要である。但し、本学会から寄稿を依頼した場合は、この限りではない。
- 論文内容:** 投稿論文は、腎臓リハビリテーションに関する原著・総説・症例報告・Letters to the Editorなどで、未発表で他誌に投稿予定のないものとする。
- 投稿様式:** 投稿論文は、E-mailに添付して日本腎臓リハビリテーション学会誌編集事務局宛に提出する。投稿論文には、400字以内の和文抄録と250語以内の英文抄録を付し、英文抄録には英文の題名、ローマ字の著者名および英文で所属名を記載する。投稿論文は、原著論文12,000文字以内、総説24,000文字以内、症例報告6,000文字以内とする。図表は、一枚を400文字分とする。Letters to the editorは、掲載論文に関する意見・質問900文字以内、回答1,200文字以内、図表は1個以内とする。原著論文は、原則として緒言、方法、結果、考察、結語という構成でまとめる。
- 掲載料:** 原則、論文の掲載費用は無料とする。図表は原則として白黒にて掲載する。治験論文などの特別掲載、カラーでの図表掲載を希望する場合は、著者の実費負担とする。カラー写真印刷代は、著者の実費負担とし、発行時に出版社へ直接支払うが、編集委員会から依頼した原稿はこの限りではない。
- 原稿の採択:** 投稿論文の採否は、査読の後、編集委員会で決定する。査読終了後の再投稿は、6カ月以内とする。それ以後は、新規論文として扱うものとする。寄稿論文は、編集委員会から依頼する。
- 著作権:** 論文の内容については、著者が責任を負う。論文が受理された場合は、その著作権を本学会に委譲しなければならない。

第12回学術集会報告

第12回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
会長 柏原 直樹

一般社団法人 日本腎臓学会 理事長
川崎医科大学 腎臓・高血圧内科学 教授

2022年3月26日・27日の2日間、第12回学術集会を岡山コンベンションセンター(岡山市)に於いて開催いたしました。重井文博先生(医療法人創和会理事長)、花山耕三先生(川崎医科大学リハビリテーション医学教授)、佐々木環先生(当科教授)に副会長として、さらに横野博史先生(岡山大学学長)に顧問としてご指導いただきました。

前回の第11回学術集会がコロナ禍において完全Web開催となったこともあり、今回は現地開催の可能性を模索してまいりました。しかしながら前年末からCOVID-19オミクロン株による第6波が国内で急速な広がりを見せ、岡山においても1月27日から「まん延防止等重点措置」が適用されました。そのような状況で今回の学術集会を安全に開催できるか、皆様に安心して来場頂けるだろうか、と最終決定の直前まで検討を重ね、最終的に現地開催とオンデマンド配信によるハイブリッド形式での開催といたしました。幸いにも3月6日をもって全国的にまん延防止等重点措置が終了し、ご参加の皆様およびスタッフの方々のご理解・ご協力も頂き、無事に現地開催を執り行うことが出来ました。ご参加頂いた方から「やはり顔を合わせてディスカッションを交わせるのは良いですね」といった声を多く頂戴し、こうした面でも大変有意義な学術集会となったのではないかと感じた次第です。

本大会ではテーマを「腎臓リハビリテーションでwell beingを実現する」とし、現地会場では理事長講演、特別企画、シンポジウム、関連学会とのジョイントシンポジウム、How toセッション、YIAセッション、若手活性化企画を一部リモート形式や事前収録も取り入れながら実施いたしました。4月11日からのオンデマンド配信では上記の配信に加え、教育講演やよくわかるシリーズの配信も行いました。一般演題につきましては176題のご登録を頂きましたが、今回はやむなくオンデマンドでのご発表という形とさせて頂きました。来年こそは会場での活発な討議ができることを祈るばかりです。

今回の学術集会には1,338名の方にご参加を頂きました。会期直前に公表された令和4年度診療報酬改定におきまして透析時運動指導等加算が新設されたこともあり、例年以上に注目を集めた様に思います。今回の新設は診療ガイドライン作成や指導士制度の創設など、これまでの腎臓リハビリテーション普及の証左であり、今後も益々の発展を遂げていくものと確信しております。

最後に、この度の学術集会開催の機会を賜りました山縣邦弘理事長、上月正博前理事長、理事の先生方、プログラム策定にご協力いただいたプログラム委員の先生方、ご参加・ご講演を頂いた皆様、ならびに大会スタッフの皆様にご心より御礼申し上げます。



第12回学術集会 Young Investigator Award 受賞者紹介



鈴木 裕太 国立保健医療科学院保健医療経済評価研究センター

「糖尿病患者における腎臓病発症予防を目的とした 生活習慣介入の費用対効果分析」

この度は第12回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 YIA 最優秀賞(会長賞)を賜り、誠に光栄に存じます。研究実施に際してご指導頂きました先生方のお力添えの賜物と厚く御礼申し上げます。今回、我々は糖尿病患者の腎臓病発症に注目したシミュレーションモデルを作成し、糖尿病患者に対する生活習慣介入の費用対効果分析を実施いたしました。結果として、糖尿病患者に対する腎臓病発症予防を目的とした生活習慣介入は長期的な費用対効果が良好である可能性が示唆されました。近年、中央社会保険医療協議会において費用対効果評価制度が本格導入されるなど、医療技術の費用対効果に注目が集まっています。腎臓リハビリテーション分野においても費用対効果の側面からも評価を実施していくことが有用であると考えております。この度の受賞を励みとして、今後も腎臓リハビリテーション分野での研究活動により一層精進して参ります。



徐 璐思 東北医科薬科大学医学部リハビリテーション学

「高フルクトース摂取下 Dahl 食塩感受性ラットにおける 長期的運動の降圧や腎保護効果」

この度は第12回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 YIA 優秀賞(副会長賞)にご選出頂き、誠に光栄に存じます。研究のご指導を頂きました東北医科薬科大学 伊藤修先生、東北大学 上月正博先生、そして実験にご協力いただいた皆様に心より御礼を申し上げます。本研究は、高フルクトース摂取下の Dahl 食塩感受性ラットにおける血圧上昇や腎障害に対する長期的運動の効果について、腎内レニン-アンジオテンシン系が関与することを明らかにしました。今回の結果から、長期的運動の腎保護や降圧効果、またその機序についての基礎のエビデンスの一つとなり得ると考えております。この受賞を励みに、審査員の先生方よりご指摘いただいた点につきまして、さらなる検討を進めて参ります。これから腎臓リハビリテーション分野の発展に貢献できるよう今後一層精進して参ります。今後とも、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



東原 崇明 東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科

「尿毒素インドキシル硫酸が及ぼす骨格筋筋芽細胞融合抑制には、 抗酸化剤アスコルビン酸が有効である」

この度は栄誉ある第12回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 YIA 優秀賞(副会長賞)に御選出頂きまして誠に光栄に存じます。これまで御指導頂きました南学正臣先生、西裕志先生をはじめ東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科の先生方、共同研究で御協力頂きました名古屋大学亀高論先生、筑波大学菅澤威仁先生に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今回我々は、アデニン誘発性腎不全モデルマウスにおいて筋傷害誘導後の骨格筋再生が遅延し、腎不全環境で蓄積する代表的な尿毒素インドキシル硫酸がマウス骨格筋細胞融合を抑制すること、そして細胞融合抑制には抗酸化剤アスコルビン酸が有効であることを明らかにしました。審査員の先生方からの御指摘を参考に、更に本研究を進展させるとともに、腎臓リハビリテーション分野の益々の発展に少しでも貢献できるよう一層精進して参ります。今後とも御指導・御鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



医療法人 偕行会

透析運動療法統括部・炭酸泉療法統括部 部長 森山 善文

1. プロフィール

医療法人偕行会は、「透析医療」「一般医療」「老人医療」を三本の柱とし、保健・予防・未病・治療・社会復帰まで含めた「総合的な医療」を展開しております。

1979年、名古屋共立病院の開院を皮切りに、現在では1都6県に渡り4病院と18の透析クリニック、2つの健診センター、9つの介護施設を運営しています。

透析患者数は3,400名を超え、合併症対策に注力しており、中でも運動療法は外来透析施設の全施設で実施しております。



偕行会グループの透析施設

2. 運動療法の重要性

もともと身体機能が低い透析患者ですが、高齢化に伴うフレイルやサルコペニアといった問題が大きくなっています。我々が2,301名を対象にフレイル調査を行った結果、フレイルに該当する割合は31.7%にものぼりました(平均年齢70歳)。プレフレイルも含めると82%と大半を占めます。

3. 運動療法の実際・活動内容

当法人では2012年からレジスタンストレーニング(RT)を中心とした透析中の運動療法を開始しました。



透析中に行うレジスタンストレーニング



多職種で行う運動療法ミーティング



インドネシアでの透析運動療法指導

RTの効果を発揮するためには、適切な負荷をかける必要があります。我々は筋発揮張力維持法(LST: Low-intensity resistance training with Slow movement and Tonic force generation)を用いたRTを実施しています。

運動療法を広く普及していく上で、コストやマンパワーの問題は大きく、LSTによるRTは比較的容易に導入することが可能であり、かつ、トレーナビリティが高い運動と考えます。

4. 運動療法の効果

透析中のLSTによるRTを継続した306名の結果では、下肢筋力およびSPPBの改善が確認できています(Y Moriyama, et al. The association between six month intra-dialytic resistance training and muscle strength or physical performance in patients with maintenance hemodialysis: a multicenter retrospective observational study. BMC nephrology 20 (1) 172 : 2019)。最近では国外にも透析運動療法を普及させることを目的に、海外(インドネシア)での透析運動療法指導なども行っています。今後もより多くの透析患者に対し、運動療法を積極的に介入していく予定です。

医療法人 偕行会

本部 〒454-0933

愛知県名古屋市名東区法華一丁目161番地

TEL: 052-363-7211 FAX: 052-363-7237

<https://www.kaikou.or.jp>

第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会のご案内

第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会 長 中元 秀友 埼玉医科大学総合診療内科
副 会 長 牧田 茂 埼玉医科大学国際医療センター心臓リハビリテーション科
岡田 浩一 埼玉医科大学腎臓内科
長谷川 元 埼玉医科大学総合医療センター腎・高血圧内科
事務局長 小林 威仁 埼玉医科大学総合診療内科

この度、第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会を令和5年3月18日から19日の2日間、埼玉県さいたま市のソニックシティにおいて開催させて頂くことになりました。今回の大会のテーマは「連携で生きる腎臓リハビリテーション」としています。これは腎臓リハビリテーション学会が多職種チーム医療により生きてくることから、チーム連携を話題の中心に考えたもので、多くの参加者と活発な議論ができることを期待しています。令和5年3月には現地開催できると思っておりますが、確定的なことは不明です。ハイブリッドでの開催を含めて企画しており、今後のCOVID-19の状況を見ながら随時報告させていただきます。

腎臓リハビリテーションは、腎不全患者に対して、運動療法、教育、食事療法、精神的ケアなどを行う新たな内部障害リハビリです。主要な運動療法は、栄養低下・炎症複合症候群改善、異化抑制、運動耐容能改善、QOL改善などをもたらすことが知られています。そのような腎臓リハビリの一層の普及ならびに医学的発展を目的として、職種を超えた学術団体として「日本腎臓リハビリテーション学会」が2011年に学会として承認されました。それにより、保存期の患者でのリハビリテーションの重要性は広く認識され、腎臓医療に大きな変化をもたらされました。さらに、我が国の透析患者数は年々増加しており2020年末の施設調査結果によれば透析患者数は347,671人に達し、人口百万人あたりの患者数は2,754人、患者調査結果による平均年齢は69.40歳に達しています。透析患者の年齢は年々高齢化しており、重複障害を有する割合も高くなっています。高齢化に伴うサルコペニアやフレイルも大きな問題です。そのような状況下において、透析患者のリハビリテーションの重要性は誰もが認識しています。2022年の診療報酬改定において、透析患者の透析リハビリテーションに新たな加算が認められました。これは誰もが望んでいた、大きな進歩といえます。今回の学会では、これからの透析リハビリテーションのあり方にも目的を絞り、議論をできればと考えています。このように腎臓リハビリ

テーションに大きな注目が集まるこの時期に、皆さんと埼玉の地で学術集会を開催できること、本当に嬉しく思います。

埼玉のさいたま市は東京からも30分と地の利も良く、紅芋、うどん、うなぎ、武州和牛などの名物も沢山あります。また埼玉は自然も多く、見る場所も意外とあります。多数の皆さんにご参加いただき、埼玉でお会いできることを楽しみにしています。



会 期: 2023年3月18日(土)~19日(日)
会 場: 大宮ソニックシティ (埼玉県さいたま市)
会 長: 中元 秀友 (埼玉医科大学 総合診療内科 教授)
U R L: <http://www.congre.co.jp/jsrr2023/>
事務局: 埼玉医科大学 総合診療内科
運営事務局: 株式会社コングレ
〒103-8276 東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング
TEL: 03-3510-3701 FAX: 03-3510-3702
E-mail: jsrr2023@congre.co.jp

一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会

●会員現況 (2022年4月30日現在)

正会員数 1,914名 (医師582名 医師以外1,332名)

施設会員 102施設 賛助会員 2社

●役員

理事長	山縣邦弘								
副理事長	伊藤 修	柴垣有吾	松永篤彦						
理事	秋葉 隆	安藤康宏	柏原直樹	倉賀野隆裕	上月正博	小林修三	齋藤正和	杉山 斉	
	武居光雄	中元秀友	成田一衛	深水 圭	牧田 茂	水内恵子	宮崎真理子		
監事	伊藤貞嘉 中西 健								
幹事	伊藤大亮	小坂志保	斎藤知栄	祖父江理	飛田伊都子	原田 卓	平木幸治	星野純一	
	松沢良太	三浦美佐							
名誉会員	秋澤忠男	和泉 徹	伊東春樹	草野英二	斉藤喬雄	佐藤徳太郎	原田孝司	平松義博	
	榎野博史	保嶋 実							
代議員	青池郁夫	明石嘉浩	浅野貞美	浅見豊子	安達 仁	安達裕一	阿部高明	阿部貴弥	
	安保雅博	荒川鉄雄	有馬秀二	安藤亮一	猪飼哲夫	井垣 誠	池田大輔	石井孝典	
	石川祐一	磯 良崇	伊丹儀友	伊藤孝史	伊東秀崇	伊東 稔	井林雪郎	今澤俊之	
	岩根美紀	植田敦志	臼井直人	宇田 晋	内田明子	内田俊也	海老原至	大石義英	
	大川卓也	太田喜久夫	大竹剛靖	大平雅美	大宮一人	大屋祐輔	大山恵子	大和田滋	
	緒方浩顕	岡本威志	岡本牧子	小川真澄	奥田康輔	尾崎美紀子	小田弘明	小幡裕明	
	甲斐平康	笠原正登	加藤明彦	河原克雅	河辺信秀	河原崎宏雄	神田英一郎	北村健一郎	
	木田圭亮	木村 剛	木村朋由	清元秀泰	忽那俊樹	熊坂隆一郎	熊坂礼音	小岩文彦	
	河野健一	後藤真希	後藤葉一	古波蔵健太郎	木庭新治	小林 愛	小林正貴	小山照幸	
	今田恒夫	齋藤久夫	佐浦隆一	佐伯博子	朔啓二郎	櫻田 勉	佐々木環	佐々木裕子	
	笹富佳江	佐藤 博	佐藤 信	佐中 孜	塩田悦仁	重松 隆	柴田 了	島田美智子	
	清水弘毅	庄司繁市	鈴木祐介	住田幹男	瀬戸由美	相馬 淳	高田亜紀	高橋哲也	
	高橋直子	田倉智之	竹本文美	田中元子	田原 恒	田淵啓二	田村岳志	田村由馬	
	土谷 健	鶴屋和彦	道免和久	富田泰史	友 雅司	長澤康行	長洲 一	長田太助	
	中村典雄	中村秀敏	中山昌明	西村彰紀	西山 成	野村卓生	蓮池由起子	畠山真吾	
	花房規男	濱野慶朋	林 謙治	檜垣靖樹	日高寿美	福島正樹	福岡長知	藤井直彦	
	藤田 雄	藤谷順子	藤元昭一	古井秀典	細井雅之	本田浩一	前田清司	前田知子	
	牧野健一郎	正門由久	正木崇生	升谷耕介	三浦伸一郎	溝渕正英	満生浩司	三間 渉	
	村上礼一	村田敏晃	室谷嘉一	森 建文	森みさ子	森下義幸	森永裕士	森本哲司	
	森山善文	安 隆則	若林秀隆	脇野 修	渡辺久美	和田隆志			

広報委員会より



3月6日をもってまん延防止等重点措置が終了し、第12回学会集会は3月26日・27日の2日間、岡山コンベンションセンターにおいて2年ぶりの現地開催とオンデマンド配信によるハイブリッド形式で開催され、1,300名を超える参加者を迎えて大盛況のうちに終了しました。本学会の活動をより広く知っていただくために、学会広報誌「腎臓リハNEWS LETTER」を毎年発行しています。今回は、

武居理事から「令和4年度診療報酬改定『透析時運動指導等加算』の新設」の記事、松永理事から「学会誌(和文誌)創刊」の記事、本学会学術集会の報告・案内、腎臓リハの実施施設紹介等の内容となっております。是非ご一読いただければ幸いです。新型コロナウイルス感染対応でお忙しい中、本誌にご寄稿くださった先生方にこの場を借りて改めてお礼申しあげます。

(伊藤 修、倉賀野隆裕、原田 卓、田村由馬)

運動療法が体力維持の一環として定着!!

仰臥位用 負荷量可変式エルゴメータ

てらすエルゴ4

オプション品 …使用時の「揺れ」対策に…

低負荷タイプ



TE4-20

高負荷タイプ



TE4-70

移動式固定台
TE-CARRY

揺れ軽減・移動が容易・設置が容易・分離タイプ



汎用式固定台
TE-ANY

揺れ軽減・設置が容易・省スペース対応



傾斜式固定台
TE-SLOP

揺れ軽減・設置が容易・傾斜角度15°・省スペース対応



てらすエルゴ専用アプリ 『TE de 運動管理』

患者様を経過観察しながら
運動データを簡単に確認できます。



専用アプリをタブレットにダウンロードしていただき
Bluetooth接続で利用いただけます。

オプション品についての詳細はお問合わせください。

お問い合わせ先

Showa Denki Group
昭和電機株式会社

ヘルスケアチーム TEL 072-870-5708

<http://www.showadenki.co.jp/terasu/>

デモ機貸出受付中!

ホームページよりお申込できます。

<https://www.showadenki.co.jp/terasu/product/erugo/order/>

詳しくは
こちら

